

はじめに

情報メディアセンター所長 岩田 員典

本年度も愛知大学情報メディアセンター紀要 COM48 号を無事発刊できました。お忙しい中投稿していただいた執筆者の方々をはじめ、編集委員や発刊に関わっていただいた方々にお礼を申し上げます。今号は私のゼミ生ですが学部生からの投稿も含め全 4 件となっております。多くの方々にご愛読いただければ幸いです。

さて、前述のゼミ生の論文ですがここ数年話題となっている AI (Artificial Intelligence : 人工知能) の一分野である自然言語¹ 処理 (NLP : Natural Language Processing) に関わるものとなっています。この自然言語処理に関して本年度大きな話題となったのが ChatGPT をはじめとする生成 AI (ジェネレーティブ AI) です。既にご存じの方や、利用したことがある方もいらっしゃると思いますが、ChatGPT に問いかけると即座にそれなりの回答 (解答) が得られます。生成 AI は学習した内容から新たなものを作り出してくれたりすることで注目されています。もちろんこれらの機能も驚くべき事ではあるのですが、我々人工知能関連の研究者としては、まずは日本語の問いに対してほぼ正確な日本語で回答することに驚かされています。詳細は省きますが、自然言語をコンピュータに分析させたり、文章を作成させる場合に日本語は難易度の最も高い言語の一つです。それにもかかわらず、これほどの確に問いに対して回答をできるようになったことに技術の進歩を感じます。

しかし、大学としてはレポート課題などに生成 AI を使って解答を作成した場合にどうするかといった問題が生じており、各大学で対応に苦慮している状態となっています。課題をチェックする側として頭を悩ませるのは正しい解答の場合に、学生が自力で書いたのかそれとも生成 AI を使ったのかといった判断が難しい点にあります。また、単に利用を禁止するだけでは最新の技術に触れる機会を奪うことにもなりかねません。そのため、本学では利用を禁止するのではなく、これらの技術を活用して共生していく方法を一体となって探っていくという方針を採用しています。

また、生成 AI の問題点としては、一見正しく見えるような間違った答えを返すことが往々にしてあるといわれています。実際に ChatGPT 3.5 (2024 年 1 月 25 日利用) に「愛知大学について教えてください。」と問いかけると以下のような答えを得ることができます。

¹ 自然言語とは人間が使う言葉のこと。コンピュータで利用されるプログラミング言語やマークアップ言語などに対比する言葉として使われる。

愛知大学（あいちだいがく）は、日本の愛知県に本部を置く私立大学です。以下は、一般的な情報ですが、具体的な詳細は最新の情報を確認するか、大学の公式ウェブサイトを参照してください。

1. 設立年：1875年に創立され、歴史ある大学です。
2. 学部・学科：愛知大学は複数の学部と学科から成り立っています。例えば、文学部、経済学部、法学部、理工学部、農学部、環境学部などがあります。
3. キャンパス：大学には複数のキャンパスがあり、それぞれ異なる学部や研究機関が配置されています。具体的な情報は大学の公式ウェブサイトを参照してください。
4. 研究機関・施設：愛知大学は様々な研究機関や施設を有しており、学術研究や産学連携などが盛んに行われています。
5. 国際交流：多くの大学と同様に、国際交流プログラムや留学プログラムが設けられている可能性があります。学生の異文化交流や国際的な視野を広げるための機会が提供されているかもしれません。
6. 学生生活：大学ではさまざまなクラブやサークル、イベントが開催され、学生生活を豊かにする取り組みがあるかもしれません。

大学の詳細な情報や入試要項、学費などについては、愛知大学の公式ウェブサイトや入試情報を確認することが重要です。

これを見ていただければ分かるかと思いますが、創立年から間違っており（正しくは1946年）、学部も理工学部以降は存在していません。一方で、3～6はほぼ正しいですが、ほとんどの大学に当てはまるかもしれない内容になっています。このように、尤もらしく答えてはくれますが、必ずしも正しいわけではないため、利用する場合はこのことを念頭に置いておく必要があります。また利用者には、回答が正しいかどうかを判断する能力が求められるようになってきます。

このように、AIやそれを取り巻く技術の発展は非常に早く、その発展に伴い重要視される能力が移り変わっていきますので、COMもそれにすこしでも寄与できるような内容を盛り込められればと思っております。